

太子高校の挑戦 その9

挑戦の二学期！つづく

本年度は、太子高校の「挑戦の年」と位置づけて「学力向上」「授業改善」に取り組んでいます。この通信で本校の取組みについてお話することで、太子高校の挑戦について知っていただければと考えています。

アクティブ・ラーニングを実践することで、教室内の空気が変わってきました。生徒達がお互いの分からないことを教え合う行為を通して、「ありがとう」「わかった」と言葉を交わす光景が増えたことです。言われた方も、特別なことを「してあげた」という風でもありません。あえて言えば「おたがいさま」といったところでしょうか。また、教室内を見回してまだ問題と格闘している生徒を見つけると、ずっと自然に寄っていった教科書やワークで教えてもいます。普段仲よしだからということでもなく、男女の区別も（高校生の年頃ですから、多少は意識しているかもしれませんが）あまりないように見受けられます。

授業担当の教師からは「みんなが決められた時間内にプリントを終わることができる教室というのは、問題が理解できた人がまだの人に自発的に教えることができているし、まだ分からない所が残っている人からは、教えてほしいという意思表示がはっきりとできている教室です。みんなで取り組む学び合いは、そこが大事です。」と説明が（繰り返し）なされます。

これは、カウンセリングのグループワークに通じるものです。分からないことを「分からない」と意思表示できるのは、それを笑ったり馬鹿にしたりする人がなく、自分の分からなさをしっかり受け止めて寄り添ってくれる人が必ずいるという安心感と信頼感があるからです。また、そういう生徒達であるという教師から生徒への信頼感が確立しているからでもあります。教室中にその安心感信頼感があれば、いじめなど起こりようがありません。

学校全体でアクティブ・ラーニングに取り組むことで、学校中が安全で安心な場になると確信します。アクティブ・ラーニングの実践は、「人間教育への挑戦」でもあります。

ONE SHOT



1棟と2棟の2階東側のつなぎ部分の上に、ドアが作られています。しかし、通路もつなぎもなくドアの下に足場となるようなものもありません。安全柵が張られ鍵もしっかり掛かっていて、開くことはできません。ならば、一体、何のためのドアなのか・・・？
前事務長さん曰く「何か運び込むためのものかなあ。それにしてはガラス張りだしなあ・・・??？」
誰か、何のために存在するドアなのか教えてください。

学校のカ・イ・ダ・ン

18日の金曜日は、本校の体育大会です。体育の時間は、その練習ががっちり行われています。行進・大縄跳びなど。そんな中、時折、竹内まりあが聞こえてきます。「マーシービートで歌わせて」と「幸せの探し方」。体育の授業中なのに・・・?! 実は、本校オリジナルのフォークダンスの練習なのでした。どんな踊りなのか。保護者の皆様、どうぞ、当日グラウンドでご覧ください。生徒達からは、「もっと踊りたい！」と毎年アンコールがでるくらい愛されています。